



特集

本学広報誌の未来 読者懇談会

1月26日、本学にて「ヘルメス・クーリエ」読者懇談会が催されました。会には、本誌読者の皆さんに加え、小樽市、北大、そして広告代理店より3名のコメントーターをお迎えし、本誌のあり方についてさまざまなご意見をいただきました。

山本眞樹夫副学長：本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本学の広報活動の対象は、高校生、卒業生、在学生、教職員、それに一般市民といったところですが、「ヘルメス・クーリエ」は特に市民向けの広報雑誌として発行しています。先日、緑丘会（商大同窓会）の新年会で、日本ハムファイターズの白井コーチに講演をしていただいたのですが、選手が小学生と一緒に給食を食べるイベントの話など、ファイターズの市民に溶け込もうとする並々ならぬ熱意が感じられました。本学に関しても、少子化する社会の中、受験生への大学紹介はもちろん大事ですが、社会全体に大学を知ってもらうためにも、広報誌の役割はますます重要になってくるものと思われまます。そこで本日は、「ヘルメス・クーリエ」に率直なご意見・ご批判をお聞かせください。

鈴木将史広報誌編集委員長：「ヘルメス・クーリエ」は、平成14年に創刊いたしまして、年3回3500部発行体制となっております。4・5件のシリーズ企画と、各号1・2件の特集で誌面を構成しておりますが、他大学の広報誌と比較すると非常にコンパクトな体裁といえるでしょう。それでは、コメントーターの方々の広報誌に対するお考えを伺いたいと思います。

中村哲也氏（小樽市総務部広報広聴課主査）：私たちは、毎月市民向け広報誌として「広報おたる」を発行しております。編集の留意点としましては、見やすさと親近感を重視しておりまして、市民になるべく登場してもらうように編集しています。経済性も無視できない問題でして、昭和25年の創刊号か



中村 哲也氏
(小樽市総務部広報広聴課主査)



青木 満里氏
(北海道大学総務部広報課長)



朝日 博昭氏
(電通北海道ソリューション統括部
コミュニケーションプランニング部長)



山本眞樹夫副学長